

第5回日本難病医療ネットワーク学会学術集会

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-03-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Yamada, Masahito メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00050415

『学会開催報告』

第5回日本難病医療
ネットワーク学会学術集会The 5th Annual Meeting of the Japanese
Society of Medical Networking for
Intractable Diseases金沢大学医薬保健研究域医学系 脳老化・神経病態学
(神経内科学)

山田正仁

平成29年(2017年)9月29日(金),30日(土)の2日間にわたり,石川県地場産業振興センターにおいて,第5回日本難病医療ネットワーク学会学術集会を開催いたしました。副会長は国立病院機構医王病院駒井清暢院長,同病院に事務局をおき,石川県,金沢市,金沢大学十全医学会,石川県医師会,金沢市医師会,石川県医療ソーシャルワーカー協会,石川県看護協会,石川県作業療法士会,石川県理学療法士会にご後援いただきました。一般参加および招待者を合わせて475名の参加を得て,盛会裏に終えることができました。

本学会の主要テーマである「難病」は,単に難治の病気であるだけでなく,さまざまな生活障害を伴い,人としての尊厳を侵蝕するものです。これに立ち向かうためには,官民さまざまな組織,そして多職種の方々の連携が必要であることが広く認識されてきています。また,平成27年には「難病の患者に対する医療等に関する法律」が施行され,指定難病は,現在330疾患にまで広がっております。日本難病医療ネットワーク学会は,平成16年に研究会として発足し,平成24年より学会となりましたが,発足当初より,職種や所属の枠を超えて広く難病の課題を検討し,医療とケア体制の向上を図ることを目的とし,さらに近年は,難病新法施行後の難病対策の変革への対応も課題としています。そこで本学術集会では,この学会の大きな特徴である多職種の力と各地域での実践を持ち寄る場から生まれるエネルギーを再確認し,次世代の医療ネットワークへ活かしたいと願い,「次世代の難病医療ネットワーク~いきるを支える多職種と地域のちから~」をいうテーマを掲げました。

特別講演は,難病医療制度の今日を築き上げられた,福永秀敏先生(鹿児島共済会南風病院)と川村佐和子先生(聖隷クリストファー大学大学院)に,「難病医療今昔物語」,「神経難病の在宅医療・地域ケアシステム創世と次世代難病医療ネットワークへの提言」というそれぞれのタイトルで,両先生がたの歩みと今後の課題についてのご講演いただき,大変深い感銘をうけました。

シンポジウムは4つを企画いたしました。「緩和ケア」では,田本奈津恵先生(国立病院機構七尾病院),田村茂先生(地域リハビリ支援室・タムラ),花井亜紀子先生(国立精神・神経医療研究センター病院)により,看護師,理学・作業療法士,それぞれのお立場からの緩和についてのお話を伺いました。「在宅難病患者の災害対策」では,西尾朋浩先生(日本ALS協会),藤田拓司先生(拓海会 神経内科クリニック)より,対応に迫られながらもスピーディには進まない災害対策についてご講演をいただきました。「栄養・摂食嚥下」では,手塚波子先生(小川医院 栄養ケアセンター),林瑤子先生(国立病院機構医王病院),清水俊夫先生(東京都立神経病院)より,特に嚥下困難を伴う神経筋疾患患者の栄養管理法やその重要性についてのご講演があり,「拡がる難病支援」では,加賀谷尚史先生(国立病院機構金沢医療センター),金子英雄先生(国立病院機構長

良医療センター),和田隆志先生(本学 腎臓内科学)より,神経筋難病以外の領域における難病についてのご講演をいただきました。それぞれの分野に秀でた実績をお持ちの先生がたに,意義深いお話を伺うことができ,フロアからは大きな反響がありました。

難病新法により新しく筋ジストロフィーが指定難病に加わったことから,本学会と筋ジストロフィー研究班の合同企画「筋ジストロフィー」も今回特別に企画されました。松村剛先生(国立病院機構刀根山病院),木村円先生(国立精神・神経医療研究センター病院)といった専門医の先生方と,山口和俊先生(当事者)より,筋ジストロフィー医療,患者登録の意義と治療,人工呼吸器を着けた地域での生活についてのご講演をお聴きすることができました。また,厚生労働省講演として,甲田亨先生より「難病対策について」と題してお話を伺いました。ランチョンセミナーは計3つであり,どの会場も盛況でした。本学術集会と並行して第9回難病患者のコミュニケーションIT機器支援ワークショップも開催され,約20名の参加者が実際の機器を使用しながら研修されました。

一般演題は,難病医療にかかわる医療職,福祉職,当事者・当事者団体,サポーター等,さまざまな職種・立場より,口演,ポスター合わせて127演題の発表があり,昨年の一般演題数を超える数となりました。内容は,コミュニケーション,意思決定支援,在宅呼吸器ケア,リハビリテーション,就労支援,療養実態等々多岐にわたりましたが,難病の日常診療・療養においての問題が,演者とフロア間で共有され,白熱した議論が交わされました。一般演題の中から,最優秀口演賞,優秀口演賞,最優秀ポスター賞,優秀ポスター賞が選ばれ,2日目の表彰式で表彰されました。

第一日目には,講演と講演の間に,医王病院の療養患者さんにより結成された「じゃんじゃんバンド」の演奏が2曲披露されました。多くの拍手があり,大変好評でした。また,毎年趣向がこらされることで注目される情報交換会は,今回も非常に多くの参加があり,全国津々浦々から参加された方々の貴重な情報交換の場となりました。

今回,9月末という,非常によい季節に本学術集会を金沢で開催することができ,幸いにも2日間ともよい天候に恵まれました。県外から参加の方々には,充実した学術集会のみならず,金沢の食,文化を堪能していただけたのではないかと考えております。

最後となりましたが,本学術集会の開催にあたりましては,金沢大学十全医学会のご後援,関係各位のご支援を賜りました。心より感謝申し上げます。

